



タコは目がいいの

タコの目は、人間の目とそっくり

ふつう、背骨のない動物は、目はあまり発達してなくて、においと味、あるいはさわった感じなどで、まわりの様子や、えさのありかを知ることが多いものです。ところが、タコのぎょろりとした目は、とても目立ちます。目立つだけではなく、実際に、人間の目と同じようなつくりで、よく発達したいい目をしているのです。

タコは、目のあたりが頭で、たくさんの神経の節が集中して、大きな固まりを作っています。これが、脳です。脳の左右にある視葉という固まりから、たくさんの神経が目の玉につながっていて、目がよく見えるのです。頭のように見えるのは、どう体です。

タコは、色、形、大きさのちがいを見分ける

タコの好きな食べ物は、エビやカニです。タコは、目で獲物を探し、見つけると、こっそりしのびより、長い足をのばして、足の大きな吸ばんで獲物を吸いつけます。そして、まずい薬を注射し、カニなどが動けなくなったところを、殻をはがし、身だけを食べます。

ねじると開く、ふたをしたガラスびんにカニを入れて実験したところ、タコはびんの中のカニを見つけ、とろうとし、ついには、ふたを開けてカニを食べてしまいました。

また、ある形や色を見せたときは、えさを食べてもよく、別の形や色を見せたときは、えさにとびつくと電気ショックをあたえるという実験をしました。すると、タコは、大きさ、形、明るい色と暗い色などがちがう図形を見分けることができるし、形を覚えることもわかりました。（監修・安部 義孝）

